

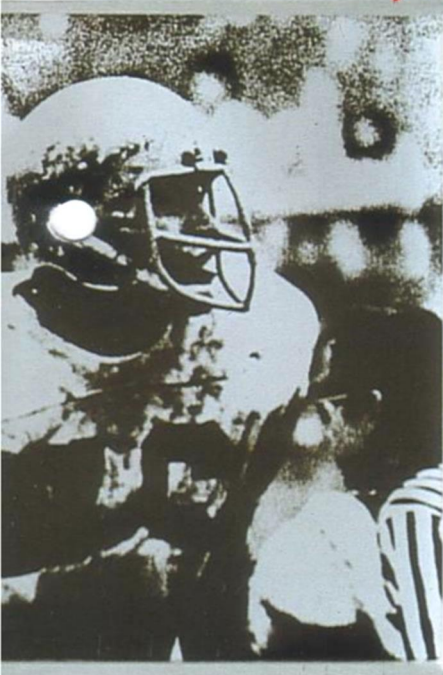
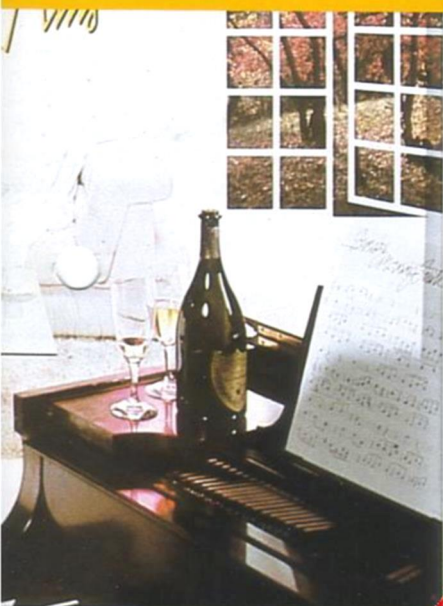


2WAY SPEAKER SYSTEM

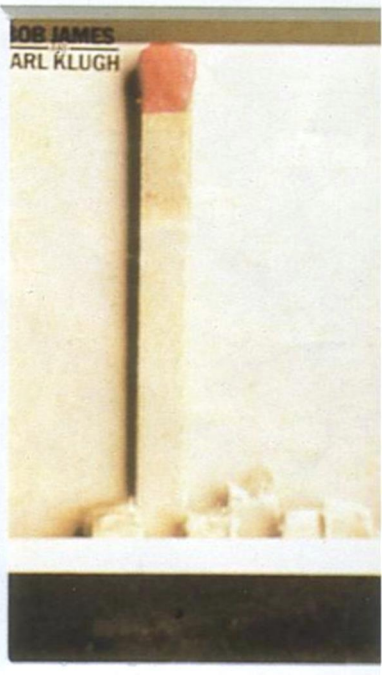
好きな音楽はいろいろでも
ほしいサウンドはひとつ。
スピーカーはいまソースを選ばない表現力。

マルチ・ベント・チューニング方式2WAYスピーカ ¥39,800(1本)

MS-11



*© beim Hersteller
Archiv Michael-Otto*



LUX CORPORATION



© beim Hersteller
Archiv Michael-Otto

(ア)

MS-11 SPECIFICATIONS

●型式:マルチ・ベント・チューニング方式ブックシェルフ型 ●使用ユニット:20 cm
口径アラミド・コーン・ウーファ, 25mm口径ポリエステル・マトリクス・クロス・ドーム
・ツイータ ●再生周波数帯域:50Hz~20,000Hz ●最大入力:60W ●定格入
力:25W ●出力音圧レベル:89dB ●クロスオーバー周波数:3kHz ●インピーダン
ス:6Ω ●外型寸法:250(W) × 540(H) × 255(D) mm ●重量:8.6 kg

MS-11

小音量で聴くときも、スタジオの熱気を逃さない!

スピーカーは振動板 〈素材が決め手〉

いまアラミド繊維: シンセサイザ・ミュージックをはじめ、音楽はいま圧倒的なダイナミックレンジ。これを再生するスピーカーは、あふれるほどのリズムも、音楽の底に流れる演奏者の情感もリアルに再現して、音楽のジャンルを選ばない実力が条件です。スピーカーの実力の決め手は、なんといっても振動板。それも形状はどうかという前に、素材に何を求めているか、決定的なキープポイントといえます。スピーカーに要求されるトランジエント特性や、パワーレスポンスといった能力は、素材がそのための素質を、どれほど持っているか、それをどれだけ引き出せるかにかかっているからです。これまで、軽くて弾性率が高いという、まさに振動板にうってつけの素質を認められながら、剛性が得にくく、何より高価なため、あまり採りなかつた高分子系アラミド。MS-11では、特殊塗布剤の開発により、充分な剛性を得ることに成功。塗布剤もまた軽量で弾性率が高い性格を持たせて、アラミドの素質を活かした、理想的振動板に仕上がっています。

Woofer 〈タイトな20cm〉

音の色付けがない: MS-11はタイトで豊かな中低域。だから、音量を上げたときも、絞ったときも、音楽の芯とリアリティを失いません。その秘密は、20cm口径のアラミド・コーン・ウーファ。スピーカーの振動板は、振動板全体が一体となって運動するために軽く、硬いこ



とが必要で。しかしそのことは、同時に固有の共振をして、色付けされた音質になるという矛盾をはらんでいます。アラミド繊維のネットに、特殊塗布剤をコーティングしたアラミド・コーン・ウー

フは、この矛盾を見事に克服。素材の能力をじゅうぶんに活かした、腰の強い、共振のない振動板で、豊かで色付けのない音質と芯のある音像を実現しています。

リアリティの良さ: 振動板のピストン運動は、前後対称でなければ、音に歪みが生じます。そこで、振動板を支えるダンパーの動きは重大。少しの歪みも許されません。このダンパーには、アラミドを採用して、高精度に成形。また、ダンパー裏側に生じる、有害な空気歪みを避けるためフレーム部を開放構造にしています。その結果、前後ともリアリティの優れた振動板の運動を可能にしています。

強力マグネット: 振動板は軽くてもマグネットは大型、110mmφのフェライト・マグネットが、振動板を強力にドライブします。また、熱発生のあるボイスコイルのボビンには、耐熱性の高いノーマックスを採用して、高耐久力を確保。

共振追放のフレーム: フレームは、アルミダイキャスト製。じゅうぶんな厚みを持たせて、堅固でしかも共振を追放した仕上げです。フレームと振動板を接ぐエッジには、トランジエント特性の優れたポリウレタンフォームを採用。

Tweeter 〈フレッシュな25mm〉

優れた分解能: MS-11は、さわやかに伸びる高音域。その分解能の優れた、色付けのない音質は、ポリエステル・クロスによる、セミハードドーム・ツイーターそのものの特徴ともいえます。



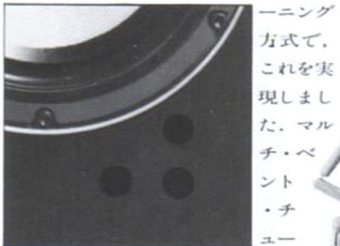
新開発のマトリクス・クロスは、繊維の1本1本にあらかじめ成形剤を含浸させることで、剛性を確保。従来のように、ネットに成形剤を塗布したり、補強のためにグラスウールを振動板裏面にタッチさせる必要がありません。ここでも素材の優秀さが音質面に生きてきます。優れた指向特性と、トランジエント特性が、さわやかさの秘密です。

アラミドコーン® beim Hersteller Archiv Michael Otto 時代!!

音のつづれ織り: 音楽は、音と気分のつづれ織り。呼吸するように音楽を楽しむこともあれば、熱くなつてのめりこむこともあります。だから、つきあう音楽はいろいろ。あるときはさわやかな音。良いし、ときにはどうしても深い情感の一曲を、というぐあいに、うつりかわる気分に応じて、そのときどきの音楽を聴きたいものです。MS-11は、そんな気分がピッタリとフィット、聴きたい音楽を、ジャンルを選ぶことなく、つねに生き生きと表現する力量です。素材が活かしているMS-11だから、色付けのないさわやかな音質と、演奏者の姿が見えるような音像定位感、そしてハーモニーの音の重なりがくっきり表現される解像力が身上。その豊かな音質は、パワフルに鳴るときも、静かに音楽を楽しむときも、いつもたしかかな音楽の心を伝えてくれます。

いつもリアルに: ボリュームを好きなだけ上げて、音量たっぷりの音楽を楽しみたいとは、だれもが望むところ。しかし、そうばかりいかないこともあります。むしろ昼間なら中音量で、夜なら小音量で聴くというのが、ふつうのオーディオ事情。ということになれば、

ボリュームを上げていないときでも、再生される音楽にはスケール感があることが絶対条件。たとえ小音量で聴いていても、たとえばライブ録音なら、スタジオの広さまで感じようようなスケール感が音楽のリアリティを求める上で欠かせません。MS-11は、独自のマルチ・ベント・チューニング



方式では、密閉タイプのエンクロージャを基本に、複数の小さな孔をあけ、中の空気圧を適切な状態にコントロールするもの。振動板が、適度にフリーに、かつ制御された状態をつくり出すわけです。一般的に、密閉方式では、振動板に対するプレッシャーのかり過ぎから、低域から中域にかけて生じる音スケの悪さが、パスレフ方式では、ダクト

が振動板に与える影響によって、パスレフ特有のクセのある音質を生じる問題があります。マルチ・ベント・チューニングは、それらを一切排除。スケの良い音質と、小音量時のスケール感を可能にしました。

さわやかさ: さわやかに伸びのある再生音のMS-11だから、踊りたくなるリズム感や、美しいハーモニーの音楽が活きます。エネルギー感を逃がしません。高度な録音技術でレコードが製作されているいま、すばらしい音質の音楽は、とても身近なもの。いつも演奏を目の前にしている気分で、音楽を楽しめます。ただし、それ

を再生するスピーカーには、じゅうぶんに広いダイナミックレンジが必要。高能率設計のMS-11は、音楽のエネルギー感まで再現するパワーレスポンスと、あくまで広いダイナミックレンジです。しかも、全帯域にわたって、いささかも音楽に色付けをしない音質です。それはまるで、むかしいたオルゴールの思いつくように、気持ちなごむあたかき。

鮮明な定位感: 自由なリスニングスタイルで、気分よく音楽を楽しむためには、音像が「ビタリ」と定位することが条件。その音像定位を求めるとき、クロスオーバーポイント付近に発生する位相歪みが大問題になってきます。MS-11では、この位相歪みの低減に最も効果的なポイントを設定して、素材も厳選。まるで指定席で聴くように、演奏者が目の前に浮かびあがってくる感じで



あふれるリズムとハーモニー、すべてがあざやか!

いい音はフリーな空間から

音楽は自由なスタイルで聴こう。
ステレオは音楽を楽しむためにある。
それなら、フリーなレイアウトがあっていい。
好きな音楽は、自分のライフスタイルなりに、
自由に楽しむのがいい。ちばん。



優しい気持ちでくらしたい
部屋の中から
背の高いものを追いかけてみた。
部屋の表情が変わって
「くらしが自分のサイズになった」
そんな感じ。
いつも
優しい目をしてもらえるようになると
音楽も優しく溶け込んできた...



気分よくくらしたい
ドアを開けて
自分だけの世界へ帰ってくる。
しやすらぐ時間のはじまり。
音楽が流れると
気分はいい。
気持ちはいい。
部屋では気が
ほっとする。
ひとひたが
のあたたかさを伝えてくる。
音楽が流れると
気分はいい。
気持ちはいい。
部屋では気が
ほっとする。
ひとひたが
のあたたかさを伝えてくる。

© beim Hersteller
Archiv Michael-Otto

中川ムセン千里店

千里サントウン内・セルシー前

☎ 06(832)9516(代)

株式会社

社：豊中市新千里西町1丁目1-1	☎ 06(834)2222	☎ 565
東京支社・営業所：東京都文京区湯島2丁目23-13	☎ 03(833)7691	☎ 113
福岡営業所：福岡市博多区博多駅前2丁目19	☎ 092(431)7528	☎ 812
広島営業所：広島市楠木町1丁目7-10	☎ 0822(92)2281	☎ 733
大阪営業所：豊中市新千里西町1丁目1-1	☎ 06(834)2222	☎ 565
名古屋営業所：名古屋市名東区藤見ヶ丘4-6	☎ 052(771)1524	☎ 469
仙台営業所：仙台市大和町1丁目3-3	☎ 0222(94)6262	☎ 983
札幌営業所：北海道札幌市西区琴似1条4丁目	☎ 011(641)2271	☎ 063

※製品に関するお問合せなどは本社、支社、各営業所まで

F980-B-D